

科目名	人文学演習Ⅳ F					単位	2.0
担当教員	浅野 玄誠						
授業形態	演習	開講期間	後期	配当年次	4	授業番号	3358

●授業のテーマ

南アジア・東南アジアの思想文化と歴史的影響

●到達目標

- ・論文を書くための方法論を身につける。
- ・卒業論文を仕上げる。

●学習内容(授業概要)

昨今、インドの経済的・文化的地位は、急速に国際的地位を高めている。アジア地域の文化の発信地は、歴史的にみればインドと中国であり、その文化は、アジア地域にとどまらず、中近東や西欧にまで波及している。インドの国際的地位の向上は、歴史的な必然性に基づいた復権といえるだろう。

この演習では、インドの歴史文化を中心に、その文化が、どのようにアジア地域に影響を与え、敷衍したかを考察する。特にインドの場合、現代文化にも思想宗教文化的な歴史背景が色濃く反映しており、その背景を知らずにインド及びその文化の波及した地域社会の現在を理解することはできない。思想宗教文化の歴史にトピックスを拾いながら、その現代的意味を考えたい。

●学習内容(授業計画)

《後期》

1. 概説
2. テーマの発見—インドの宗教と現代—
3. テーマの分析—インドの宗教と現代—
4. テーマに沿ってディスカッション
5. テーマの発見—チベットの生死観—
6. テーマの分析—チベットの生死観—
7. 自己テーマによる発表（1）（3人）—前週にテーマを講評し、順次発表する。発表一人15分、質疑10分—
8. 自己テーマによる発表（1）（3人）—前週にテーマを講評し、順次発表する。発表一人15分、質疑10分—
9. テーマの分析と批評（1）—1回目の発表の内容を教員が研究方法と表現方法の二つの側面から講評する—
10. 再提出による発表（1）（6人）—前回の発表時指摘された内容を再検討し発表する—
11. 自己テーマによる発表（2）（3人）—前週に発表テーマを公表し、順次に発表する。発表時間は一人15分、質疑10分—
12. 自己テーマによる発表（2）（3人）—前週に発表テーマを公表し、順次に発表する。発表時間は一人15分、質疑10分—
13. テーマの分析と批評（2）—2回目の発表の内容を教員が研究方法と表現方法の二つの側面から講評する—
14. 再提出による発表（2）（6人）—前回の発表時指摘された内容を再検討し発表する—
15. 概評

●準備学習・事後学習の内容

・自らのテーマを策定して論文を読み、その概評を読後レポートとして提出、または発表時には発表用のレジメと原稿を用意する。

・読後レポートを読んだ教員の指示によって次の論文を読み、読後レポートを提出、または発表時には、指摘された内容に従って、レポートにまとめて再提出。

●成績評価方法・基準

平常点と日常的なレポートの提出によって評価する。（平常点 50%+レポート 50%）

試験期間中の学期末試験は行わない。

●テキスト（必携）

授業の中で配布する。

●参考文献／その他

授業中に紹介する。

●履修上の注意

この授業は演習であり、教員が講義するのではなく、受講生が演習して発表することを目標とする。主体的に参加できるよう、関心のあるテーマを見つけてきてほしい。